

県外派遣報告書

審判員名	若林 哲	所属	U15	
大会名	令和6年度 第77回全国高等学校バスケットボール選手権大会			
期間	令和6年12月23日(月)～24日(火)			
会場	東京体育館			
スケジュール				
期 日	内 容	場 所		
12月23日(月)	男子1回戦	東京体育館		
12月24日(火)	男子1回戦	東京体育館		
実技				
担当試合	期 日	12月23日(月)	男子 女子	男子1回戦
	対戦カード	帝京長岡 VS 八王子	CC U1	U2
	相手審判	CC:飯尾勝紀氏(大阪府) U1:佐田幸一氏(山梨県)		
ミーティング内容		主任		
<p>【PGCについて】</p> <p>クルーワークを大切にすることが大前提ではあるが、最優先は「ゲームが壊れないようにすること」。明らかなケースに対してプライマリーからのコールがない場合は、セカンダリーでコールできる良いクルーの関係を気づいておくことが大切。その場合でも「お陰様、お互い様」という感覚でメンタルを保つこと。センターからの判定を積極的に行うこと。</p> <p>【ゲーム後の振り返り】</p> <p>ゲームの序盤から良いコールがコンスタントに続き、ゲームが落ち着いていた。ゴールテンディングもグッドコール。両チームの留学生にも公平に笛が入っていた。インパクトが大きかったケースの中で、何らかのコールが必要だったケースが2つ。後で映像で振り返る必要あり。</p>				
担当試合	期 日	12月24日(火)	男子 女子	男子1回戦
	対戦カード	県立川内 VS 國學院大學久我山	CC U1	U2
	相手審判	CC:豊田康平氏(島根県) U1:秀島充彦氏(佐賀県)		
ミーティング内容		主任		
<p>【PGCについて】</p> <p>ベーシックなメカニクスを心がけること。細かくなりすぎず、タフにやらせたい。キープレーヤー(久我山4番)がオフェンシブなプレーヤーであることを考えると、レフェリーディフェンスを徹底したい。ゲームの序盤はコール・ノーコールに対して何かしらのリアクションがあるのは当然。しかし判定の基準を示すことができれば、だんだんリアクションが治まり、ナチュラルインターバルに突入していく。細かくなり過ぎないようにする。</p> <p>【ゲーム後の振り返り】</p> <p>コールが必要な大きなインパクトに対して、しっかりと笛が入ってよかった。判定基準がチームにしっかりと伝わり、ナチュラルインターバルが長く続いた。とてもスムーズにゲーム運営ができた。ゲームの終わり方として、負けているチームに対しての笛の入れ方を吟味する必要がある。</p>				
全体の感想				
<p>まず初めに開催地である東京都バスケットボール協会の皆様、そして今大会へ派遣して下さった埼玉県バスケットボール協会の皆様に感謝申し上げます。東京都の皆様に関しては毎年このような大きな大会を運営して下さい、頭が下がる思いです。</p> <p>今回は地元チームの試合を本部派遣のS級の方々と担当させていただきました。過度な緊張はなく、いいメンタルで試合に臨むことができました。</p> <p>今回考えさせられたのは、「オフェンス・ディフェンスのどちらでもいいケース」に対しての判定についてです。実際に担当した2試合とも、そのようなケースがありました。ゲームをコントロールしていく上で、そのようなケースに笛を入れていくことは絶対に必要になってきます。今回は2試合ともU2として担当しましたが、クルーチーフメンタリティがもっと必要だったと感じています。</p> <p>レフェリーとしての強さを磨いていけるように今後も精進していきます。以上で派遣報告とさせていただきます。ありがとうございました。</p>				

※本報告書の体裁は報告者自身にて自由に変更いただき問題ありません。分かりやすいよう図や写真を入れることも可能です。